

サイバー空間の脅威に対処

警察の取組や被害防止策を緊急セミナーで提示

J E A S

工業会 日本万引防止システム協会（東京都新宿区、稲本義範会長、以下、J E A S）は、11月28日に緊急ハイブリッドセミナー「サイバー空間の脅威に対処するための体制の構築及び人的・物的基盤の強化」と題するセミナーを高千穂交易セミナールームで開催した。セミナーでは、サイバー空間における警察の取組やサイバーセキュリティ企業から被害防止策などが提示された。

ランサムウェア攻撃に代表されるサイバー攻撃の脅威は高まっており、被害も深刻化している。こうした状況を踏まえ、J E A Sでは緊急セミナーを開催した。冒頭にあいさつした稲本会長は、J E A Sの活動などを紹介した後、大きな脅威となっているランサムウェア攻撃に対し、「覚悟を持ってやっていかないと企業成長はない」との考えを述べた。

セミナーでは、警察庁

サイバー警察局サイバー企画課サイバー事例防止対策室の中川陽介課長補佐が「サイバー空間を巡る脅威の情勢と警察の取組」、高千穂交易B S C事業本部B S事業部サイバーセキュリティソリューション地グループマネージャーが「『今どきのランサムウェア』にどう備えるか？」日本初登場の「H a l c y o n」で実現する強固なセキュリティ対策」「セコムトラストシステムズの山口早雄インサイドセールス2部部长が「セキュリティインシデントが起きる前に今何をすべきなのか？」サイバーセキュリティ教育とアタックサーフェス調査のススメ」の順で講演が行われた。

セミナーでは、サイバー空間の脅威として挙げられる問題点や被害状況に加え、現代のサイバー攻撃から組織が被害を未然防止するために必要な対策などが説明された。サイバー攻撃による被害を防止するにあたり、事前の取り組みや最新動向の情報収集の重要性が増しており、聴講者にとって非常に有益な場となった。